

東洋史学の第一人者

内藤 湖南

ないとう こなん

出身地 鹿角市

1866年（慶応2年）～1934年（昭和9年）

東洋学の大家。特に中国史の研究者として知られる。ジャーナリストを経て、京都帝国大学教授となる。東洋史を担当し、教育者としても人望を集めた。著書に『近世文学史論』『支那論』『清朝史通論』などがある。



年譜

- 1866年 鹿角市かづのに生まれる。本名・虎次郎とらじろう。
- 1885年 秋田師範学校しほん卒業。
- 1887年 上京、明教新誌しんしの記者となる。
- 1895年 台湾日報たいわん主筆となる。
- 1897年 万朝報よろずちようほう主筆となる。
- 1900年 大阪朝日新聞社おおさかに入社、論説ろんせつを担当たんとう。
- 1907年 京都帝国大学の講師に招かれ東洋史を講義。
- 1909年 京都帝国大学文科大学教授しゅうにんに就任。
- 1926年 帝国学士院ていこく会員に任命。
- 1934年 京都府ほつで没。67歳さい。